資料３－１

前回の部会以降、新たに状況を把握した主な指標

平成２７年１０月

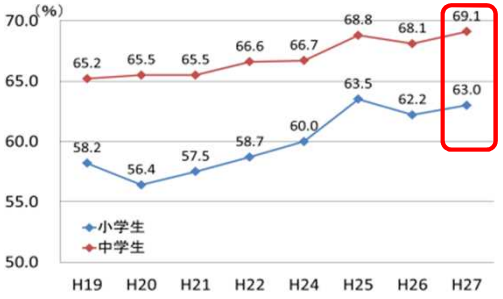
成果目標１：「生きる力」の確実な育成

【確かな学力】

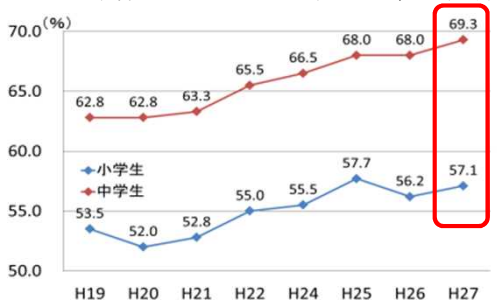
（成果指標②）児童生徒の学習意欲の向上や学習習慣の改善

→　平成24～27年度の結果を比較すると、1時間以上勉強している児童生徒の割合は増加

学校の授業時間以外で平日に1日当たり1時間以上勉強している児童生徒の割合



学校の授業時間以外で土日に1日当たり1時間以上勉強している児童生徒の割合



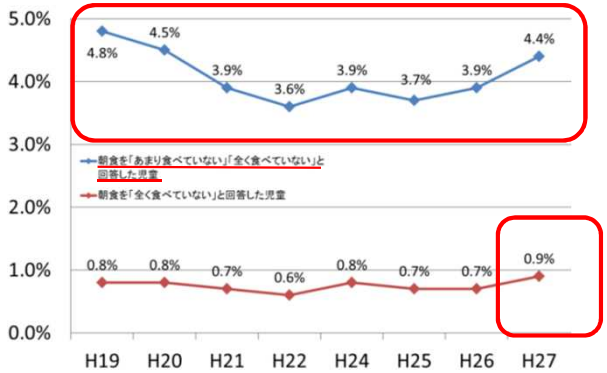
（資料）「全国学力・学習状況調査（平成19年度～平成27年度）」（文部科学省）

【健やかな体】

（成果指標②）学校における健康教育・健康管理の推進
・朝食を欠食する子どもの割合の減少

→ 平成24～27年度の結果を比較すると、増加

朝食を欠食する子どもの割合（小学校）



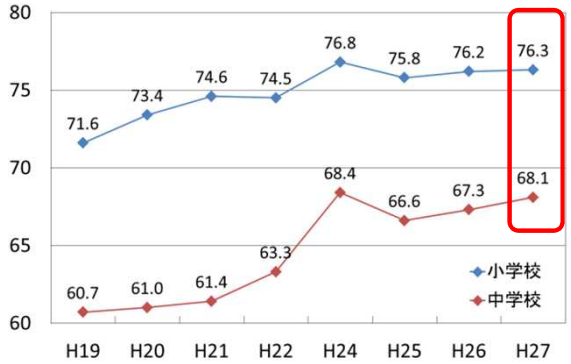
（資料）「全国学力・学習状況調査（平成19～27年度）」（文部科学省）

【豊かな心】

（成果指標①）自分自身や他者、社会等との関わりに関する意識の向上
・自分には良いところがあると思う児童生徒の割合の増加

→　平成24～27年度の結果を比較すると、横ばい

（%）　自分には良いところがあると思う児童生徒の割合

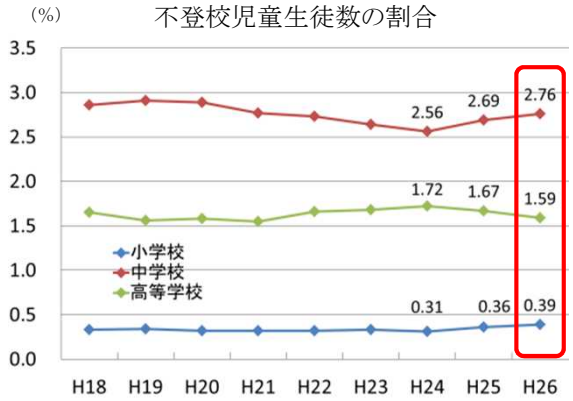


（資料）「全国学力・学習状況調査（平成19年度～平成27年度）」（文部科学省）

（成果指標②）いじめ、不登校、高校中退者の状況改善
全児童生徒数に占める不登校児童生徒数の割合、

→　平成24～26年度の結果を比較すると、小中学校で増加、高等学校で減少

全児童生徒数に占める不登校児童生徒数の割合



（資料）「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（平成18年度～平成26年度）」（文部科学省）

成果目標２：課題探求能力の修得

（成果指標①）各大学における学修時間の把握状況の改善
→　平成24年度と25年度の結果を比較すると、増加

	H24	H25
学部段階において学生の学修時間や学修行動の把握を実施している大学	299大学（40.2%）	441大学（59.8%）

（資料）「大学における教育内容等の改革状況について（平成24年度）（平成25年度）」（文部科学省）

（成果指標②）学修支援環境の改善
→　平成24年度と25年度の結果を比較すると、増加

	H24	H25
TA（ティーチング・アシスタント）を配置している大学	482大学（62.9%）	484大学（63.5%）

（資料）「大学における教育内容等の改革状況について（平成24年度）（平成25年度）」（文部科学省）

（成果指標③）
全学的な教学システムの整備状況の向上
（教育課程の体系化、組織的な教育の実施、授業計画の充実など）
→　平成24年度と25年度の結果を比較すると、増加

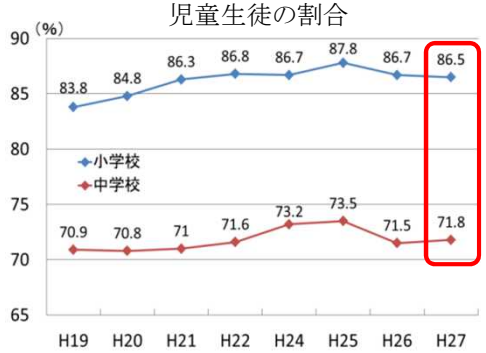
	H24	H25
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている大学　【学部段階】	570校（76.7%）	694校（94.0%）
【研究科段階】	457校（74.4%）	551校（89.3%）
ナンバリングを学部段階で実施している大学	125校（16.8%）	162校（22.0%）
履修系統図（カリキュラムマップ、カリキュラムチャート）を学部段階活用している大学	353校（47.5%）	383校（51.9%）

（資料）「大学における教育内容等の改革状況について（平成24年度）（平成25年度）」（文部科学省）

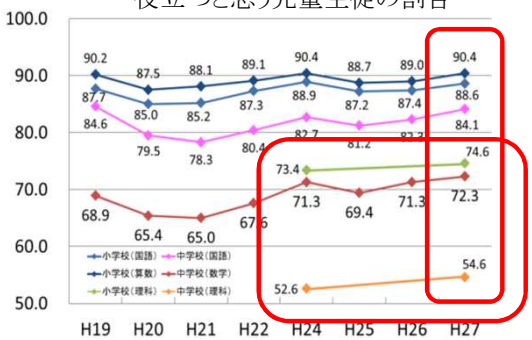
成果目標4：社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成等

（成果指標①）児童生徒の進路に向けた意識の向上
・将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合の増加
→　平成24～27年度の結果を比較すると、小・中学校ともに横ばい
・教科学習が将来社会に出たときに役立つと思う児童生徒の割合の増加
→　平成24～27年度の結果を比較すると、小学校国語と算数は横ばい、他は増加

将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合



教科学習が将来社会に出たときに役立つと思う児童生徒の割合



（資料）「全国学力・学習状況調査（平成19年度～平成27年度）」（文部科学省）

（成果指標②）就職ミスマッチなどによる若者の雇用状況（就職率、早期離職率等）改善に向けた取組の増加
・大学・短期大学、高等専門学校、専修学校等におけるPBL（Problem-Based Learning）等の実施率増加
→　大学については、平成24年度と25年度の結果を比較すると、増加

	H24	H25
大学と企業等とで連携して実施する、企業の課題解決や製品開発等を題材とした授業科目を開設している大学	177大学（23.8%）	200大学（27.1%）

（資料）「大学における教育内容等の改革状況について（平成24年度）（平成25年度）」（文部科学省）

・大学・短期大学、高等専門学校、専修学校等への社会人の受入れ状況の改善（履修証明プログラムがある大学の増加）
→　履修証明プログラムを開設している大学については、平成24年度と25年度の結果を比較すると、増加

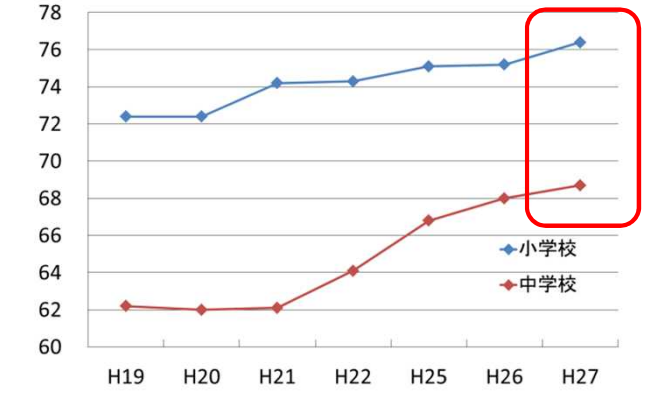
	H24	H25
履修証明プログラムを開設している大学	72大学（9.4%）	83大学（10.9%）

（資料）「大学における教育内容等の改革状況について（平成24年度）（平成25年度）」（文部科学省）

成果目標５：
社会全体の変化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成

＜新たな価値を創造する人材関係＞
（成果指標②）難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している児童生徒の割合の増加 → 平成22～27年度の結果を比較すると、増加

難しいことでも失敗を恐れないで
挑戦していると回答した児童生徒の割合

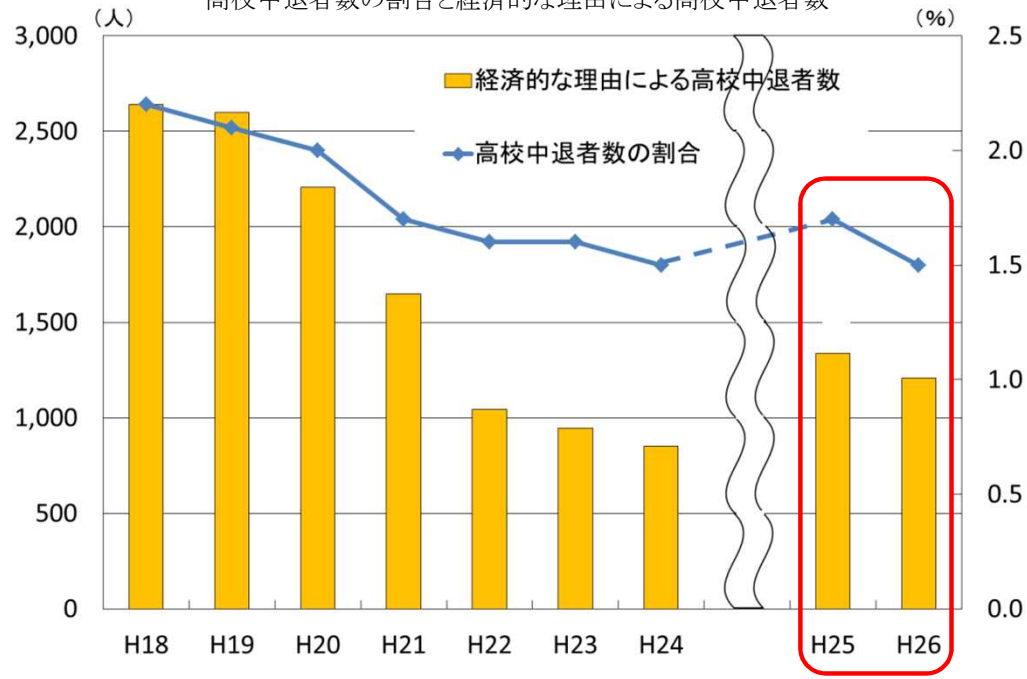


（資料）「全国学力・学習状況調査結果(平成19年度～平成26年度)」（文部科学省）

成果目標6：意欲ある全ての者への学習機会の確保

（成果指標②）経済的な理由による高校中退者の数の減少
（成果指標⑤）いじめ、不登校、高校中退者の状況改善
（高校中退者の割合の減少など）
→ 平成25年度と26年度の結果を比較すると、減少

高校中退者数の割合と経済的な理由による高校中退者数

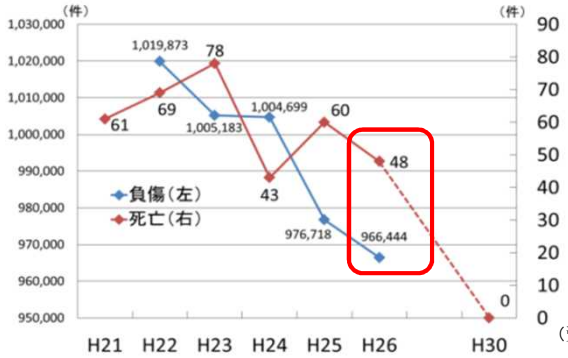


（注）平成25年度からは高等学校通信制課程も調査に加えている。
（資料）「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（平成18年度～平成26年度）」（文部科学省）

成果目標7：安全・安心な教育研究環境の確保

（成果指標③）学校管理下における事件・事故災害で負傷する児童生徒等の減少、死亡する児童生徒等のゼロ化
→平成24～27年度の結果を比較すると、学校管理下における負傷事故の発生件数は減少、死亡事故の発生件数は増加

学校管理下における負傷・死亡の発生件数



（資料）「災害共済給付状況（平成23年度～26年度）」
（独立行政法人日本スポーツ振興センター）
「学校種別の災害発生状況・給付状況
（平成21年度、22年度）」
（独立行政法人日本スポーツ振興センター）